Manapio 放送大学機関リポジトリ The Open University of Japan Repository

# 英国 Open Universityの教育システム


| | |
|---|---|
| 著者 | 阿部 龍蔵, 笠原 潔 |
| 雑誌名 | 放送大学研究年報 |
| 巻 | 15 |
| ページ | 91-98 |
| 発行年 | 1998-03-31 |
| URL | http://id.nii.ac.jp/1146/00007384/ |

放送大学研究年報　第15号（1997）91-98頁
Journal of the University of the Air, No,15 (1997) pp.91-98


# 英国 Open University の教育システム

阿　部　龍　蔵[*1)]・笠　原　　潔[*2)]

# The Educational System of The Open University
## −A Report−

Ryuzo ABE, Kiyoshi KASAHARA

## 序

平成９年10月16日（木）から10月22日（水）まで，阿部龍蔵（放送大学副学長）・笠原潔（放送大学助教授）・吉野正巳（放送大学教務部教務課長）・上田浩司（放送大学教務部修学指導課長補佐）・加藤義行（(財）放送大学教育振興会常務理事）の５名で英国 Open University（以下，OU）に出張し，OU の教育システムに関する調査を行った．放送大学の全国化を踏まえての視察調査である．

今回の視察で明らかになったことのうち，特筆すべきは，以下の２点である．

１．OU は，チューター（tutor）による指導を基幹としている点で放送大学の教育システムとは大きく異なっていること．

２．OU の授業科目のうち，level 3に分類されている科目の内容は非常に高度であること．

以下，この２点に絞って OU の教育システムについて述べる．

## １．OU 教育システムの特徴

（１）OU の教育システムは，本部から送られてくる教材による自宅学習と，チューターによる指導（チュートリアル，tutorial）を基幹とする．チューターの数は，入手した『要覧』*Facts and Figures 1995／96* によれば，総学生数211,318人（1995/96年度）に対して Associate lecturers として7,613人（1996年度）が挙げられており，これに総勢913名の OU 専属スタッフの一部が加わる．チューター１人あたり25人の学生数を限度として

*1) 放送大学副学長
*2) 放送大学助教授（人間の探究）

チュートリアル・クラスの編成を行い，学生数が26人を超える場合にはクラスを二つに分ける，という．

チューターによる指導は，全英に311個所，国外に27個所ある学習センター(Study Centre）の他，既存の大学施設やコミュニティー・センターなどを借りて行われる．

（2）学生は，チューターによる指導のほかに，OU本部から送られてくる教材（テキスト，オーディオ・カセット，ヴィデオ・カセット，CD-ROMなど）によって自宅学習する．科学実験なども，送られてくる実験キットを用いて自宅で行う．

放送は，滞在中に何本かのテレビ番組（1本25分）を視聴したが，授業の全内容を覆うものではなく，いくつかの講義の特定の章に関連した話題を取り上げたものに過ぎず，OUのパンフレットにしばしば書かれているように，全く副次教材的な性格のものであった．事実，授業内容に対応した放送を持たない科目も多い．なお，放送番組のプログラムと各回の放送内容は，OUのホーム・ページ（http://www.open.ac.uk/）で知ることができ，また，週末に放映される番組はOUのインターネット上のホームページでも流されているので，日本でもアクセスできる．

当初「放送大学University of the Air」を目指したOUの設立構想が，途中から「公開大学Open University」に変わったのも，OUの教育体制におけるこうした放送番組の位置づけの変更に伴ったものと推察される．

## 2．OU教育システムの概要

（1）OUは，通常の大学卒業資格（Bachelor学位）取得のコースのみならず，大学卒業資格を既に持つ学生（Postgraduate level student）のための修士課程（Master学位授与)やビジネス・スクール，ロウ・スクール(1998年度開設)，福祉，看護，教育，コンピューター・プログラミングなどの様々な資格(Diploma)や資格証明(Certificate)を与えるコースを併設しており，果ては博士課程（Doctor学位授与）までをも設置している．これらはチューター制度を採ることにより可能となったものと思われる．その全てについて述べるのは煩雑となるので，以下，Bachelor学位授与の課程についてのみ述べることにする．

（2）イギリスの大学は3学年制を取っているため，OUもこれを踏襲して，授業はlevel 1，level 2，level 3の3段階に分かれている．後に述べるように，level 1の授業は入門編にあたり，かなり初歩的な内容である．level 2の授業は日本の大学での講義内容にほぼ匹敵し，場合によっては，日本の中学校・高等学校で教えられる専門的内容をも含んでいる．level 3の授業はかなり専門的であり，OU内ではhonours levelとして位置づけられている．

（3）Bachelor学位を取得するには360単位の修得が必要である．授業科目には30単位科目と60単位科目とがあり，30単位科目は週7時間以上の学習が，60単位科目は週14時間以上の学習が要求される．年120単位ずつ取得すれば3年間で卒業できることになるが，これは，フルタイムの学生の学習時間に相当することになる．従って，科目登録は年間最大120単位までに制限されている．

Bachelor学位取得に必要な360単位は，level 1とlevel 2の科目のみでも満たすことができるようアレンジされている．BA（Bachelor of Arts)/BSc（Bachelor of Science)

のどちらの学位を与えるかは，単位を取得した科目のバランスによって決定される．

level 3の科目，すなわち honours level の科目を120単位以上取得した場合には，通常の Bachelor 学位に加えて hounors degree（成績により，4段階に分かれる）が与えられる．

（4）授業は，毎年2月に始まり，ほぼ32週にわたる学習からなり，10月後半の単位認定試験で終わる．この間，学生は，本部から送られてくる学習キット（テキスト，オーディオまたはヴィデオ・カセット・テープ，CD-ROM，科学実験キットなど）によって自宅学習し，原則として7回の「指導問題 Assignment」を提出する．これに連動して，チューターによる指導が6～8回程度ある．また，夏に1週間の宿泊学習（residential school）がある．

先に述べたように，テレビ・ラジオによる放送番組は，全くの副次教材扱いである．OUは，ヨーロッパ各地（東欧・西欧），エチオピアとエトルリア，シンガポール，香港などにも進出しているが，これらの地域の学生には番組はヴィデオもしくはオーディオ・カセットで送られる．

なお，科目によっては副教材（副読本など）の購入が別途要求されるものもある．

（5）成績は，「指導問題」の成績と単位認定試験の成績をもって判定する．

「指導問題」は主としてチューターが採点するが，マークシートを用いてコンピューターで採点するものも若干あるという．

「指導問題」に全て合格してはじめて単位認定試験を受ける資格が与えられるというが，実際にはチューターの綿密な指導により，大半の学生が受験資格を獲得するようである．

単位認定試験は記述式で，試験時間は3時間．採点はチューターが行う．毎年10月後半に行われ，日曜日を除く正味10日間の試験期間中に毎日午前（10：00～13：00）と午後（14：30～17：30）に計20コマのコマが組まれ，全部で約400科目（大学院クラスやビジネス・スクールなどの科目も含む）の試験が行われる．

事故その他の理由で試験が受けられなかった者のために，3週間後にやはり10日間の日程で追試が行われる．

## 3．OU スタッフからの聴取内容

**〔チューターについて〕**

（1）チューターのほとんどは他大学の教員のようで，OU では「高等学校の教師もいないわけではないが」という言い方をしていた．これに，OU の専属スタッフも加わる．

こうしたチューターに OU スタッフとして活動するためのトレーニングを施している点が，OU の特徴である．今回の訪問時に入手した資料の中に，以下の8冊のチューター並びにカウンセラー教育用マニュアルが含まれていた．

*Supporting Open Learners, Introduction*
*Learning How to Learn* (*Teaching Toolkit*)
*Reading and Note Taking* (*Teaching Toolkit*)
*Writing Skills* (*Teaching Toolkit*)
*Effective Tutorials* (*Teaching Toolkit*)

*Supporting 'Personal and Career Development'* (*Teaching Toolkit*)
*Students with Disabilities : Some Guidelines* (*Teaching Toolkit*)
*Supporting Students with Mental Health Difficulties* (*Teaching Toolkit*)

7回ある「指導問題」の採点はチューターが行うが，その結果は本部でモニターし，問題あるチューターに対してはチューター教育用のプログラムを施す．

試験の採点に関しても同様で，チューターは一人あたり約100枚の答案の採点にあたるが，そのうちの15～20%の答案を無作為に抽出して，チューターの採点能力の評価を行う，という．

「我々は，チューターの質 quality を如何にスタンダードに保つかに，最も気を使っている」との OU スタッフの言葉が印象的であった．

「質 quality を常にコントロールする」という言葉は，OU の他のセクションの代表者たちもしばしば口にしたものであり，OU が一つの企業体として「品質管理」に細心の注意を払っている様子が伝わってきた．

（2）10月後半に単位認定試験が行われるが，採点基準に関する共通理解を得るために，試験の前後にチューターたちを集めて何度も打ち合わせを行うという．

チューターによる採点が出た後，チューターの採点状況を審査する採点評価委員会（OU の Senior Academician がメンバーとして加わる）が採点内容をチェックしてその結果をレポートし，その報告と採点結果とを合わせた資料を副学長（周知のように，英国では学長は名誉職であり，学内での最高責任者は副学長 Vice-Chancellor である）以下のメンバーによる委員会で審査して最終的に成績判定し，学生に通知する，という．従って，10月後半に実施した単位認定試験の結果の学生への通知は，12月半ばになるという．

（3）OU は，現在，積極的に海外進出を図っているが，その場合，学生やチューターの募集は提携先の海外諸機関（現地の大学など）が行い，答案の採点は OU 側で行う．OU は海外の提携先機関に OU が要求するチューターの質の最低基準（minimum quality）を予め示し，その基準を遵守するよう申し入れた上でチューターの人選を依頼する．海外のチューターの能力は常に OU がモニターしており，必要となれば教育プログラムを施す，という．

**〔単位認定試験について〕**

（4）病気入院・受刑中などの理由により，受験会場に来られない学生のためには，監督者が病院や刑務所に出向いて試験を行う．今回訪問したマンチェスターの Regional Centre の場合，身体障害学生が約700人いるが，そのうち，200～250人が在宅試験を受ける，という．なお，そうした場合，外国にまで監督者が出向く場合には，学生から追加料金（extra charge）を徴収する，という．

**〔身体障害学生について〕**

（5）身体に障害を持つ学生は，1996年度の統計では，全学生の4.5%を占めている（およそ，7000－8000名）．OU は，各地域センターに配属されたチューターならびにカウンセ

ラーが学生に対して様々なサポートを与えるシステムがそもそも充実しているが，身体障害者に対してはさらに様々な追加サポートを特別に行っている．身体障害学生の支援に関しては，NGO に協力を仰いでいる，とのことであった．

**〔教材作成について〕**

（6）教材は，テキストを執筆するアカデミック・スタッフ（教員．複数者で意見を交換しながら執筆にあたることが多い）を中心に，編集者，デザイナー，番組プロデューサー（ヴィデオ・カセット，オーディオ・カセットなどの副教材作成のため），コンピューター・プログラマー（CD-ROM を副教材に使う場合），事務系職員など，全部で20人ほどでチームを作って作成にあたる．いずれも，OU の専属スタッフ（番組プロデューサーの場合は BBC-OU Production の専属スタッフ）である．このほか，教材の品質確保のために，外部の研究者をコンサルタントとして迎えることがある．

（7）教材は，様々な視点から検討を加えるため，1年から1年以上，多くの場合2～3年かけて製作する．改訂は，状況によるが，早いもので5年くらい．10年くらい使用するのが普通である．

（8）音楽関係の科目 From Baroque to Romantic：Studies in Tonal Music（科目コード：A314，level 3，60単位科目）の場合，教材は，32週の学習期間に合わせた32単元の内容が3ないし4単元ごとに9分冊（A4大．平均100頁）にまとめられたテキストを中心に，譜例集（ほぼ同様の量であったから，数百頁に上るものと思われる．日本で市販されている譜例集よりもはるかに収録作品数が多い），オーディオ・カセット・テープ（13巻）で一つの学習キットが構成されていた．この他，ヴィデオ・カセットや CD-ROM などが学習キットに含まれている科目も多い．

（9）テキストの内容は，複数の著者によるだけに，極めて客観的で，スタンダードな内容であった．なお，これらの学習キットは，日本では GEMCO を通じて購入することができ，また，放送教材に関しては放送大学附属図書館に常備されている．

（10）テキストには，数単元ごとに「課題 Exercise」と「検討 Discussion」の項が置かれ，学生が自分で学習した内容をチェックできるようになっていた．「課題」には，「模範解答例 suggested answer」が付けられていて，問題の捉え方や推論の進め方の見本が示されていた．

（11）OU では，最近，副教材としての CD-ROM の活用を推進している，という．実際，そうした CD-ROM ソフトの一つ（理科系の科目に付属する，「カーボン・サイクル」を主題とした副教材）を見せてもらったが，いわゆる Edutainment 的な内容であった．

（12）CD-ROM を教材に使う場合，コンピューターを学生に購入させるのか，と尋ねたところ，購入させる場合もあるし，レンタルもある，との返事であった．その場合，様々な OS に対応したコンテンツを開発するのは大変ではないか，コンピューターの機種は指定するのか，と尋ねたら，OU の専属スタッフが様々な OS に対応した CD-ROM を作成している，コンピューターを購入する場合，機種の指定はしないが，推奨はする，との答えが返ってきた．

（13）なお，OU としては，今後はインターネットの活用が遠隔地教育には有効との見通

しを持っており，そのプログラム開発に力を注ぎたい，とのことであった．こうしたインターネットの活用は，学生の教育のみならず，先に述べたチューターの指導にも有効であるとの判断を持っているようであった．

〔地域センターについて〕

(14) 英国訪問中，英国内に13ある地域センター（Regional Centre）の一つ，マンチェスターの The OU North West Region を訪問した．同センターは，チェシャー，ランカシャー，マンチェスターの全域，およびダービーシャーの一部，マン島などの地域を担当し，この地域の人口は英国総人口の約10％を占め，所属学生数は約14,000名であるという．

(15) 今回の訪問で判明したことは，OU の地域センターは，学生ならびにチューターの管理にあたる純然たる管理センターであった，という点である．同センターは，センター長，事務長以下の5名の管理スタッフ（Administrative staff），24名の academic staff（staff tutor および staff counsellor），および約50名の事務職員（staff）によって運営されており，学生の受入事務と，所属学生ならびに同地域内で指導にあたっている約1000名のチューターの管理，チューターやカウンセラーならびに教室の手配を専ら担当している．学生やチューターに関する個人情報は，OU 本部と結んだコンピューター上で電子情報として共有しているほか，地域センターではそのハードコピー（プリントアウト書類）を保管していた．

(17) 入学手続きや科目登録は，出願用紙で行う他，インターネットを利用してオン・ラインでも行っていた．

〔番組制作について〕

(18) OU の放送番組は，OU 内で半独立的地位にある BBC-OU Production が製作する．同プロダクションには約40人のプロデューサーが在籍し，毎年，テレビ，ラジオの番組（各25分）を約200本ずつ製作するほか，教材キットに含まれるヴィデオ・カセット，オーディオ・カセット，CD-ROM の製作にもあたっている．こうした教材の配布は，将来的にはインターネットの WWW を通じて行うのが最も有効と考え，今，そのシステム開発を進めている，とのことであった．

(19) 各プロデューサーは，教材作成チームに加わって副教材をテレビないしはヴィデオ，またはラジオないしはオーディオのどちらで作成するか，その具体的内容をどのようにするか，などの検討に加わる．教材をテレビ/ヴィデオにするか，ラジオ/オーディオにするかの判断は，その内容が視覚的に見て興味深いものかどうか，という基準で判断するという．番組のほとんどはロケで製作し，ドキュメンタリー・タッチの内容になっており，教員（アカデミック・スタッフ）が画面に登場することはまずない，という．ただし，土曜日の午前中に放送される，特定のテーマを巡っての討論番組にはスタッフが討論参加者として登場することもあるという．

## 4．科目の内容

（1）先に述べたように，BA/BSc 学位取得用の OU の授業科目は，level 1，level 2，level 3の3段階に分かれている．このうち，音楽関係の科目教材を調査したが，level 1の科目は非常に基礎的，level 2の科目は日本の中学校・高等学校の音楽の授業でも教えられている程度の音楽理論的内容，level 3の科目は極めて高度な内容の科目である，と判断された．

今回調査したのは，以下の4科目である．

level 1：Introduction to Music(科目コード A102の7-9．この授業は単独で1科目をなしているのではなく，「歴史学入門」「文学入門」「美術史入門」など各3単元ずつの授業×10＋まとめの2単元の計32単元で一つの科目 An Arts Foundation Course〔科目コード A102〕を構成している)

level 2：Understanding music：elements，techniques and styles（科目コード A214）

level 3：From Baroque to Romantic：studies in tonal music（科目コード A314．ただし，1997年度で閉講し，1998年度からは From Composition to Performance：Musicians at work〔科目コード AA302〕が開設される）Beethoven（科目コード A341．1997年度開設）

（2）A102 (level 1) ではト音記号などは出てこず，学生がよく知っているポピュラー・ソングなどを素材にして，音の上がり下がりは五線上に記した点の上行・下行で表示する手法が使われていた．

ト音記号などの音部記号は，A214 (level 2) の後半で初めて登場し，理論的な解説が行われていた．この講義の内容は，日本の中学校・高等学校の音楽の教科書で教わる程度の音楽理論を教えるものであると見受けられた．

level 3の科目内容は極めて高度で，A314の「指導問題 Assignment」の課題の中には「教材に示したバッハの無伴奏チェロ組曲第2番の第何楽章の場合，繰り返し記号前の第1括弧の部分はト長調で終わっているが，〔設問1〕第2括弧の部分では何調で終わっているか？　〔設問2〕その転調の理由は何か」というようなものもあった．

A341でも，「〔設問1〕譜例に示したベートーヴェンのピアノ・ソナタ作品2－2のスケルツォに構造上の切れ目を記し，各部の調を書きなさい　〔設問2〕この楽章でベートーヴェンが「対照」の技法をどのように効果的に使っているか，簡明に記しなさい　〔設問3〕「悲愴」ソナタの独創的な点を1000語以内で記しなさい」といった課題が並んでいる．

（3）こうした高度の授業内容をどのような学生が受講するのか，マンチェスターの Regional Centre の人文科学部門のスタッフ・チューターに尋ねたところ，「演奏家など専門家を目指す者もいるが，普通の会社員も主婦もいる」との返事であった．途中で脱落 (drop out)する学生もいるのではないか，と尋ねたところ，「もちろんいる．1クラス25人のうち，5人くらいは脱落する」というので，「残りの20人程度は，指導問題をクリアーして，単位認定試験を受けるということか」と再度尋ねたところ，「その通りだ」との答え

に言葉を失ったような次第である．ちなみに，1997年度の場合，同 Regional Centre では，チューター指導のクラスが，A214 (level 2) には 2 クラス，level 3の A314と A341には各 1 クラスが設けられている．

放送大学の授業内容は難しすぎるという声を時折耳にするが，OU では放送大学以上に高度の専門的授業を行っていることが分かった．OU スタッフの「level 3の科目は，専門化 specialization が目的である」との言葉は，強く印象に残った．

## 結 論

OU の教育システムは，本学の教育システムとは大きく異なる点も多いので，単純にそれを移入することは困難であるが，学ぶべき点も多い．その最たるものは，OU での授業の level 3にあたる授業内容の高さである．この点に関しては，OU の学生ならびに教職員の努力に素直に頭を下げざるを得ない．

上記のように，OU の教育システムに関しては，今後も学ぶべき点は多い．今後も OU との交流を強く望むものである．

(平成 9 年11月26日受理)